

雲取山2017年

報告者 Hoshi

○2017年6月2日～3日

○Naka、Tsuka、Hoshi

1日目

山の標高と西暦が合致して今年脚光を浴びている「雲取山」の企画者が都合で参加出来なくなり天気を見ながら Naka さん Tsuka さんと雲取山山行を楽しんできました。コースも選択できる計画書を作成して頂き一番楽コースを希望しましたが。

Tsuka さんは奥多摩側から登り、私は Naka さんと三峰口から山荘へ向かうコースです。今春新装オープン of 西武秩父駅は温泉施設を備え、「祭」をコンセプトにしたデザインの館で事業費 24 億 5000 万。この日初めて目にしたので浦島太郎子になった感じでした。

急行バスで三つ峰口。登山届を提出して木立の中に付けられた緩やかな道をゆっくり歩きだす。登り始めの山道は急登ではないがこの体で歩くとどっと汗が吹き出す。帽子を取り、アームカバーを手首まで降ろし、首にしたタオルで目が開けられない程の汗を拭く。太陽の直射が無いのが幸いだが 4 5 分に 3～5 分の水分補給の立ち休憩。山荘まで歩ける確信は無い。Naka さんは波の無い速度で歩かれる。ともかく歩く、歩かなければ進まぬ。一足分歩幅でゆっくり歩くが老いと鈍った体にはきつい。

Naka さんが教えてくれる標高や道標で確認する雲取までの距離のカウントダウンを楽しみに歩くが幾度下りにガッカリしたものか。人生で修行はしてるから勘弁してよと山の神につぶやきながら。下ったら登る、登ったら下ると繰り返して地蔵峠も過ぎた。

霧藻ヶ峰 (1523m) から白岩山までゆるい登りも我には辛い、時々ツツジの花が存在を知らせて目を奪われる。ツガ、シラビソの原生林に小鹿が集団遊びをしており芋の木ドッケ、大ダワからは男坂を避けて一步一步とゆっくり歩む。

Naka さんが「水のパイプがあるから間もなくだよ」と言い終わると直ぐ「見えたよ」と。雲取山荘のベンチに Tsuka さんが待っていてくれた。15:50 山荘着

Tsuka さんが山荘からだ「雲取山標識記念 2017×2017」のバッジを手渡してくれた。これは価値ある山行になった。お早い到着の Tsuka さんに宿泊手続きも済ませて頂き、手洗い使用後の水場所を教わる。まだ陽が高いので外のテーブルで歓談していたが太陽の移動と共に居られない程の寒さ、身震いして小屋に入る。

夕食を終えて今夜は炬燵を真ん中にして周りに布団を敷く。ご夫婦（明るい婦人に穏やかな夫君）と 5 人で就寝。夜中に股関節が痛み出し声を殺して寝返りを打ち態勢を変える。明日は歩けるだろうかの話では無くザンスカールも大雪も帰宅後即キャンセルだと覚悟した。2 時間弱疼痛部を押さえていたがいつの間にか眠ってしまい 4 時になっていた。

あれ？大丈夫かなと起き上がってみる。押し寄せる痛みは去った。山頂まで行ける望みもわいてきた。関節のネジが緩んで壊れたおもちゃのようにバラバラになるのではと懸念したのは夢かと思う程の回復。今回の歩行が荒療治になった？

2日目

食後5時40分山荘発。目覚めたばかりの体は重い。Tsukaさんに励まされて一足ずつ前に運ぶ。最後の一步を踏んで頂上に出る。6時に雲取山と対面できました。富士山、南アルプスが雪を載せて一幅の絵に。



避難小屋も広くて綺麗。これから下り、気を抜きがちになるのでやはりゆっくりと歩く。七ツ石山まで登りそれから延々と下るが、よくもまあこれを登ってきた Tsuka さんに脱帽。登ってくる人数も多く、すれ違いに気をつけてそろそろ足もひざ裏も痛くなった頃に路駐の車が下方に見えて間もなく登山口の林道に10時5分着。鴨沢駐車場まで数分歩き着いてから又ビックリ。満車を超える満車の中、良い位置に駐車されていた Tsuka さんのお車で八王子まで送って頂きました。

今も立ち上がりに筋肉痛で難儀しています。這いずりながら帰宅しても同じで恥ずかしい。雨に降られる事も無く（雨具が大の苦手）お陰様で今年の初山行になりました。サポートして下さったお二人に感謝しかございません。有り難うございました。